

No	作品名	出展者名	作品についての説明
1	マフラー風 スカーフ	清水美波 (群馬県)	2歳になる娘のために製作しました。幼い娘でも付けやすいようにマフラー風に作り、両端に花のモチーフを付けました。富岡で生まれた娘が少しでもシルクに触れ合えればと思い、製作した作品です。
3	シルク、 リストバンド	須田純子 (群馬県)	ビーズを編み込んだリスト(手首)バンドです。セーターやブラウス、ジャケットと一緒に手首に添えると素敵だと思い作成いたしました。ビーズをたくさん入れるとシルクの繊細さで重くなり、何度か編みなおしました。小さな作品ですが、心を込めて作成いたしました。
5	アクセサリー マフラー	堀越和子 (群馬県)	『タティング・レース』…「小さなシャトル」を使って編むレース技法。技法は、「結ぶ」「結う」「作る」 「結び目」の技法は、古代エジプトの発祥から、一説では16世紀のイタリアで基礎的な技法が生まれたとされます。「アクセサリー・マフラー」の作成については、かなり時間が掛かりましたが、ようやく仕上がりました事、大変嬉しく思っております。「結ぶ」「結う」「作る」であり、「ふんわり」感はありませんがよろしくお願いたします。
8	アクセサリー ケース	松島和枝 (群馬県)	シルクでレース編み作品を作りたいと思い参加しました。糸が思っていたより繊細だったので、立体的になるようレース針を細い号数で編んでみました。作品が出来たら、どのアクセサリーを入れてみようかな！どこに置こうかな！と思いながら楽しく編みました。
9	夢の中の船旅	Plankton (千葉県)	波のように輝く絹糸は 細やかに編まれて輝きを増す 不思議なロープワーク 海の中には珊瑚に海星 この夢の思い出を詰め込んで
10	曼荼羅モチーフの ショール	杉山小夏 (大阪府)	他の毛糸で編む予定だったものをそのままシルクニットで編みました。ほぼ1カセ使い切りで編み終わり、ケープとして使うのにちょうどいいサイズになりました。半円モチーフが徐々に大きくなっていく曼荼羅をイメージした三日月ケープで、肩の形に沿うようになっています。シルク特有のツヤ感のお陰か、思った以上に華やかな仕上がりに満足しています。ドレス等フォーマルな服装によく似合うと思います。
11	コブウェブ ショール	さきち (石川県)	告知ツイートを見て「わーい！編みたい！！」と軽い気持ちで参加しました。届いた糸のきらめきに感動し、ちゃんとしたモノを編みたい！と思い、編み始めたものの、糸の細さとサラサラツルツルに苦戦し、納得いかず何度か編みなおし、やっと仕上げたのがこのショールです。思ったより小さく仕上がりましたが、何か特別な時に使おうと思います。
12	バタフライ風の模 様のストール	アイムアール (青森県)	シルクは蚕が吐き出す繭の糸から作られると知り、蚕の成虫をイメージした模様でストールを編みました。私は養蚕はやった事がないのですが、先人たちの知恵で生まれた糸に感謝し、編みました。今までで一番細く、高級な糸だったので、編むのも緊張しましたが、スルスル編めたのでとても楽しかったです。これからはシルク糸にも臆せず、糸の感触を楽しみながら、またいつか再びシルク糸で編んでみたいです。
14	サマーセーター	Satoko (東京都)	一生大切に着られる服が欲しいと思い、3ヶ月かけてコツコツ編みました。デザインはフリーパターンをいくつか組み合わせました。お気に入りの一着が出来ました。
16	ポレロ	大山敬子 (群馬県)	ふんわり軽い仕上がり、艶がある、柔らかい、繊細であるなどシルク手芸糸のよさを最大限に表現できる編み物の手法を考えた結果、リッチ編みになりました。本来は手芸糸そのものを見せながら、袖ぐり衿ぐりは他の編み方も考えたのですが、重くなってしまい、最終的に本体と同じ編み方と細編みでしっかり縁を固定させました。
18	キヌビエ（絹製の アマビエ）	まるみ (東京都)	糸は3本取り。かぎ針4/0号使用。髪と台座は後付けですが、本体は別パーツのぬい付けなしで編み進んでいます。単体でも自立しますが、安定感を増す為に台座付をしました。絹糸でのあみぐるみ制作は初めてだった為、つるつる滑って手こずりましたが何とか仕上がりました。
19	あじさい	武藤八重 (群馬県)	私は下仁田あじさい園の近くに住んでいます。そのあじさいを思い浮かべながら製作しました。絹糸が柔らかすぎて、編みはじめの1段目がにげてしまい、完成するのが不安でしたが、なんとか仕上がりました。ニットを着るのではなく「アートとして鑑賞するのでもいいよね」と子供達からもアドバイスをもらい、この作品となりました。
20	かめの あみぐるみ	遠藤紀美枝 (群馬県)	絹の糸で編物をするのは初めてでした。参考になる物がなくて自分の考えで編みました。糸が細いので2本にして編みました。2本の糸が離れないようにしました。手足尾などの小さな所は目が落ちないように注意しながら編まないで大変でした。これからは亀のようにゆっくり歩んでいきたいと思っています。